

しろとり はいでんおどり  
白鳥の拝殿踊

- ・文化財の所在地 岐阜県郡上市
- ・保護団体 しろとりはいでんおどり ほぞんかい  
白鳥拝殿踊り保存会
- ・公開日 毎年7月から9月
- ・文化財の概要

【指定の趣旨】

本件は、楽器を伴わず、床を鳴らす下駄の音が楽器の機能を持つ、特色ある踊りである。拝殿や仏堂を下駄履きで踊る踊りは、かつては郡上市全域、さらにはその周辺にも及んだが、多くは廃絶しており、本件はその芸能を今日に伝える希少な事例である。

現在の主要曲は10曲で、コウタ（小歌・小唄）、クドキ（口説）、バショオドリと多様な形式の曲が伝承されている。なかでもバショオドリは、地元と他村の人による掛け合いの歌詞で構成される儀礼的な側面を持ち、歌詞の内容や歌の構成に独自性がみられる曲である。

拝殿踊は盆の時期を中心に踊られているが、盆行事との関連は希薄で、行事や祭り終了後の余興としての意味合いが強い点も注目される。

以上のように、本件は特色ある芸能を有し、芸能の変遷の過程や地域的特色を示して重要である。

【文化財の説明】

本件は、岐阜県郡上市白鳥町で、盆や秋祭りなどの後に踊られる風流の踊りである。切子灯籠きりこどうを吊した神社の拝殿を踊りの場とし、切子灯籠を中心に輪を作った踊り手が、下駄で床を踏み鳴らしながら踊る。

現在の主要曲は10曲で、踊り手の中から歌上手が次々に音頭取りを務め、踊り手も囃子詞はやしことばなどを入れつつ、皆で踊る。手を肩より上には上げずに踊るとされ、手振りよりも足運びに重点が置かれている。楽器を伴わずに下駄の音のみで踊る。



白鳥神社の拝殿踊



野添貴船神社の拝殿踊

写真提供：郡上市教育委員会